

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800290		
法人名	特定非営利活動法人 すずらんの木		
事業所名	NPOグループホーム すずらんの木(1階)		
所在地	岐阜県下呂市萩原町羽根437番地1		
自己評価作成日	令和 4年 9月 16 日	評価結果市町村受理日	令和 5年 3月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの理念である「尊厳を守ること」を念頭に置き、毎日のケアに取り組んでいます。現在はコロナ禍で、以前のような外部との交流や外出や面会ができません。職員は施設内にウイルスを持ち込まないよう、努力を続けています。そんな中でも、利用者様が施設の中で季節を感じたり張り合いのある豊かな生活を送れるよう、なるべく以前のように家事をお願いし動いていただくことや、様々なイベント(施設内)を企画し楽しんでいただいたり、ちょっとした時間に気分転換もかねて散歩にお連れするなど、できる限りの介護に努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JizyosyoCd=2172800290-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和4年12月16日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度も引き続き、コロナ禍の状況が続いているが、その中であっても、利用者のエンパワメントを高めていく観点から、その人の強みを引き出し、ホームの集団ダイナミクスを活用して、屋内でも楽しめる企画(例えば、運動会や文化祭など四季折々の企画をはじめ、毎月の行事企画)を検討する等し、利用者がより主体的にいきいきとした生活を送れるよう、取り組んでいる。毎日の食事においても、利用者が台所に入り、食材を切る等の下ごしらえをしたり、洗い物やお皿拭きを手伝ったり、可能な利用者は自ら配膳する等役割をお願いしながら、できることを見守り、支援している。また、ホームは地域とのつながりを大切にしており、地元の祭りの際の子供たちとの触れ合いや、日々の様々な場面で、近隣の方々とのささやかなお付き合い等を通じて、コロナ禍にあっても、地域との交流が途切れないよう配慮している。運営推進会議も開催は控えているが、地域の役員や行政の担当者に、書面にて運営状況や行事等の様子を報告し、意見をいただいている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	廊下や事務室など目に入る場所に理念が掲示されており、自分の支援が理念に沿っているかどうか考えながら行動している。	理念は開設当時から一貫して変えておらず、月に2回のカンファレンスで話題にすることで職員への周知を図っている。また、廊下や事務所に掲示し、職員間で意識を高めている。理念を振り返りつつ、言葉遣いや接し方等、職員同士で注意しながら、ケアにあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域との関わりが薄くなっているが、近所の方などから野菜の差し入れをいただくことがある。保育園や近隣の託児所との交流は年に数回ではあるが続いている。	日頃の付き合いから、野菜やサツマイモをいただいたり、地域の祭りで子供たちにお菓子を渡したりと、コロナ禍であっても交流は途切れず続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍ということもあり、そのような機会がない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行っていないが、2か月に一度、現在のグループホームの状況を報告できるよう準備をしている。	コロナ禍のため、会議を開催しない代わりとして、自治会長や民生委員、市の担当者等の委員に、2か月に1回の頻度で、ホームの入居状況や行事等の近況報告を書面にて行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者の方には日頃らご指導、ご協力をいただいている。包括が関わっている利用者がこちらに入所される時には連携してスムーズな入所に至った。	運営推進会議や事故報告等をしたり、制度の情報提供や助言を受ける等、協力関係ができています。例えば、非常用発電機に対する助成金制度の情報を尋ね、書類の書き方について問い合わせる等、日頃から連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の人権を大切に、どんな小さなことでも拘束にならないかと気にかけて支援している。やむを得ず安全ベルト、ベッド柵を使用している方もみえるが、安全確保のためにご家族様の了承を得て行っている。玄関の施錠は夜間のみである。	転倒のリスクがある方や医療依存度の高い方等で、必要な時には、家族の同意を得て、実施する場面があるが、なるべく短時間になるよう付き添いや見守りケアで対応する等している。また、現場でのスピーチロックについてはお互いに注意し合っている。	言葉遣いやスピーチロックについては職員間で注意しあったり、身体拘束については、時間短縮を目指す等して、その時々で職員個々で工夫に努めている。コロナ禍の影響もあり、実施できていなかった身体拘束をしないケアについての勉強会を再度実施し、学びを深める機会にされるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時、トイレ介助時など身体に異常はないかと注意深く見るようにしている。言葉の虐待にも注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方がみえるため、身近に感じているが、勉強する機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際、ご家族様と話す機会を設け、説明することで理解を得ている。改定の際にもわかりやすくお伝えしご理解いただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍でお会いすることが中々ないが、必要時には連絡を取り、ご家族様のお気持ちを把握するようにしている。いつでも気軽に意見や要望を出せる関係作りに努めている。	コロナの影響もあり、面会が少なくなっているため、ホームから電話連絡を増やし、意見を伺うようにしている。その際に、外泊や面会の希望が多いが、困難な状況である。今後は、感染状況を踏まえて、家族の希望に合わせて面会を再開することとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスの際や、普段から意見や提案を聞いている。もっと意見交流できる場を持ちたい。	月に2回のカンファレンスで意見を聞いている。管理者は職員に対し、気づきがあれば何でも出してもらおうよう促している。また、日常的な業務の中で意見を聞くようも努めている。例えば、利用者の嚥下機能の低下に伴い、ソフト食の導入に取り組んだらどうかとの意見があり、支援に反映させた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況把握に努め、事情等考慮しながら就業環境等の整備に努めているが、足りない部分はある。今必要な事に関しては早急な対応に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら資格を取ったり、外部研修を受ける支援を行っている。法人内の研修は行われていない状況である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、外部研修に行く時以外にはないため、増やしていけるとよい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に訪問調査を行い、ご本人の思いや要望をお聞きし理解することで、信頼関係が築けるよう心掛けている。こちらから声をかけ、真摯に向き合うように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問調査時や、入所時にご家族様の思いや要望をお聞きし、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の状態を把握し、施設でできることと照らし合わせた上で、その時に最優先だと思われる支援を考えお伝えしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に活動や作業を行う中で充実感を感じてもらえるよう心掛けている。感謝の言葉を口にし、大切な人であり必要とされていると感じてもらえるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には月に一度手紙を送り、利用者様の様子を伝えている。必ず写真も同封している。体調不良時など必要に応じて電話で連絡、相談をし共に支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため基本的には面会や外出はしていないが、馴染みの人や場所を話題にして、懐かしい、嬉しい気持ちになってもらえるようにしている。	コロナ禍の状況にあり、外出は控えているので、雑誌や昔の写真などを見て、利用者の馴染みの人や場所を話題にして会話を広げている。新たに把握できた情報については、カンファレンス等で共有し、支援につなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングの席を気の合う人同士で組み合わせている。一緒に活動する中で利用者様同士がより良い関係が築けるように働きかけられている。孤立している人がいないかいつも気配りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実際に相談を受けてはいないが、会えばご挨拶し経過をお聞きしている。退所されて何年も経つが、いつも気にかけて下さり野菜を届けて下さるご家族様もみえる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりの中で積極的にコミュニケーションをとり、思いや希望を聞き把握に努めている。困難な場合は本人本位にアセスメントを行い検討している。	日頃から会話をする機会が多く、利用者の思いや意向を把握している。「飴が欲しい」「買い物に行きたい」等の要望に応え、コロナ禍以後は、移動販売車に月2回来てもらい、希望に応じている。意思表示ができない方の場合には、表情やしぐさ等から思いや希望を汲み取る等している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にこれまでの生活の様子をご家族やケアマネジャーからお聞きし、把握に努めている。ご本人との普段の会話からも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル、食事摂取量、表情や動作、言動などを注意深く観察し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様にご希望や思いを聞き、ケアプランを作成し、カンファレンスで意見を出し合い、最終的な介護計画を作成している。	ケアプランは3か月に1回見直しを行い、家族からは電話で意見を収集している。担当職員によるアセスメントにより計画案が作成され、カンファレンスで検討して作成し、職員間で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務申し送りノート、夜勤ノート、介護経過記録に日々の様子を記録することで、情報の共有や実践、介護経過記録の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の送迎、付き添いや個人希望の外出等その時々状況によって柔軟に対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動販売車に月に2回来ていただき買い物を楽しんでいる。訪問美容師の方に来ていただいたり、薬局の訪問指導、訪問歯科、鍼灸マッサージなどのサービスを利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	納得が得られたかかりつけ医に継続的に受診しており安心感がある。必要に応じて病院を紹介していただき、適切な医療を受けることができている。歯科、鍼灸マッサージの受診も行っている。	隣地にあるかかりつけ医へ定期的に受診をしている。かかりつけ医の判断で総合病院への受診の指示があった際は、職員が同行している。歯科や鍼灸マッサージの往診も受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診の際、かかりつけ医の看護師に利用者様の詳しい様子や気づきを伝え相談し、アドバイスやご指導をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には介護サマリーで情報交換を行っている。退院前に、事前調査として病院に出向き詳しく情報を聞き、受け入れ態勢を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて早い段階でホーム、ご家族、医師とで面談を行い、書面にて同意を得て確認している。訪問看護のご協力を得て穏やかに最期を迎えられるようスタッフ全員で支援に取り組んでいる。	利用者が重度化した場合には、心身状態の低下に応じて、早めに家族、職員、医師等と話し合い、医師、訪問看護と連携しながら、職員チームで、利用者・家族の意向に沿った支援を行っている。家族にはホームに泊まっていただき、看取っていただけるような体制にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	的確な判断・処置ができるよう定期的に訓練を行い、実践力を身につけたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署のご協力、ご指導の下避難訓練を行っている。地域との協力体制を強化する必要がある。緊急連絡網の設置、非常食や水、ランタン、非常用トイレなど用意している。	年に2回、消防署立ち合いのもと、日中や夜間を想定した訓練を実施し、アドバイスももらっている。スプリンクラーの設備があり、非常用の発電機も整備されている。	今後、消防署等からアドバイスを受けて夜間の避難場所や実際の避難手順等を明確にする等、災害対策に向けたさらなる取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の気持ちを忘れず、一人ひとりに合った言葉かけを心掛けている。明るくにこやかにケアに当たるよう心掛けている。トイレのお誘いなど周りの方に分からないように配慮している。	プライバシーへ配慮しながら日々のケアを行っている。また、利用者の人権を尊重する姿勢で接するよう、職員間で相互に注意し合い、声かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由に気持ちを表出できる雰囲気作りを心掛けている。そんな小さなことでもご本人に決めていただけるような言葉かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはだいたい決まっているが、絶対的なものではないと思っている。どう過ごしたいか希望されることは少ないが、その日の状態に合わせて休んでいただいたり活動に参加していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけ自分で衣服を選んでいただいている。清潔であるよう汚れた衣服の交換に気を配っている。ヘアカットは訪問美容師に依頼している。化粧の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様のその日の体調に気を配りながら、食事の片付けや準備を一人ひとりのお力に合わせて職員と一緒にしている。食事と一緒に摂り、準備から片付けまで楽しい時間となるようにしている。	利用者と職員が食材の皮むきや米とぎ等、食事の準備を一緒に行い、利用者一人ひとりの状況に応じてサポートしている。また、利用者の希望を聞き、その日の担当職員が献立を立てている。皆で食卓を共にし、季節の行事食や誕生日メニューを企画し、利用者にとって食事が楽しみになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食摂取量をチェックし、体調の変化に気を付けている。一人ひとりの状態に合わせた形態や量で食事を提供している。水分補給も10時、15時に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、声かけや介助を行い清潔の保持に努めている。必要に応じて歯科医の往診によるケアを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレでの排泄につながるよう支援している。自尊心を傷つけないよう気を配りながら介助している。	チェック表により、排尿の間隔を把握し、さりげなくトイレ誘導する等、排泄の自立に向けた支援を行っている。また、日常生活の中で利用者一人ひとりの排泄の自立に向けて何ができるか考えながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を利用し、把握している。野菜をたくさん使った料理や、水分をきちんと摂れるようご本人の好みの飲み物を提供したり、毎日のラジオ体操で体を動かしたり等取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3日に1回のペースで入浴していただいている。本人の体調に注意し、入浴してもらえそうなタイミングで声掛けをしている。好きな音楽を流したり楽しく会話し、楽しい時間となるよう心掛けている。	体調が悪い等で入浴できない場合は、日時を変更したり、足湯を提供する等、柔軟に入浴支援を行っている。また、季節に合わせて、柚子や入浴剤を使用したり、利用者によっては好みの音楽をかけ、楽しんでもらえるよう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度調整、清潔な寝具など気持ちよく眠れるよう支援している。利用者様の体力や状況に応じて休息をとっていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は名前を確認し、見届けてから服薬チェック表に記入している。服薬の内容の把握に努めている。薬が変わった時にはその後の変化にも注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お好きな事、得意な事を把握し、ホームでの生活に取り入れ、張り合いのある楽しい日々になるよう支援している。(生け花、音楽、買い物など)施設内のイベントにも力を入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で通常通りはできていないが、できる時にはドライブ兼花見に出掛けた。天気の良い日には短時間の散歩にこまめに出掛けている。	今年度も、コロナ禍で外出が制限される状況にあるが、その中でも、感染状況に配慮しながら、利用者の希望に沿ってドライブ等の外出支援を行っている。また、ホーム周辺に移動販売車が来た際には外気に触れながら買い物をしてもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を事務所の金庫で預かり、欲しいものがあればいつでも買えることを伝えている。お金がないと不安になられる方には所持していただくなど、一人ひとりに合わせて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方には、事務所の電話を使っていただいている。現在はみえないが、手紙のやり取りのご希望があれば、切手などの準備やポストへの投函など支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月ごとにイベントを計画し、季節感を感じられる装飾を行っている。清潔を心掛け室内の明るさや換気、温度に気を配り、過ごしやすい空間作りに努めている。季節の花を飾ったりしている。	リビング空間には季節や行事に合わせた飾りつけをしている。また、感染予防の観点から換気を常に行っている。家庭的な環境を大切にするため、あえて衝立等使用していない。畳スペースがあり、洗濯物たたみを一緒に行う等して、ゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	屋外、廊下には椅子やソファが置かれ、自由に使用していただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で使われていたものを持って来ていただいたり、家族の写真やプレゼント、施設内のイベントで作ったものなどを飾り、居心地よく過ごされている。	畳の居室も整備する等、利用者の従前の生活スタイルに合わせた居室を用意している。馴染みの家具や調度品類が持ち込まれてあり、生活に支障がないよう、配置を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング入口の提灯、階段の上り口の張り紙、居室の表札など場所がわかりやすいようにしている。安全に過ごせるよう無駄な物を置かないようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800290		
法人名	特定非営利活動法人 すずらの木		
事業所名	NPOグループホーム すずらの木(2階)		
所在地	岐阜県下呂市萩原町羽根437番地1		
自己評価作成日	令和 4年 9月 16 日	評価結果市町村受理日	令和 5年 3月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの理念である「尊厳を守ること」を念頭に置き、毎日のケアに取り組んでいます。現在はコロナ禍で、以前のような外部との交流や外出や面会ができません。職員は施設内にウイルスを持ち込まないよう、努力を続けています。そんな中でも、利用者様が施設の中で季節を感じたり張り合いのある豊かな生活を送れるよう、なるべく以前のように家事をお願いし動いていただくことや、様々なイベント(施設内)を企画し楽しんでいただいたり、ちょっとした時間に気分転換もかねて散歩にお連れするなど、できる限りの介護に努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JgvoCsCd=2172800290-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和4年12月16日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目に入る所に理念が掲示しており、意識づけをしている。目にした時には読むようにし実践できるよう心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で日常的な交流はできていないが、こども園の子供たちとの交流は年に数回ではあるが続いている。小学校からも生徒が育てた花を寄付していただいた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で地域の人に向け発信することはできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行えていないが、2か月に一度、現在のグループホームの状況を報告できるよう準備をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者の方には、日頃から助言やご指導、ご協力をいただいている。包括が関わっている利用者様がこちらに入所される時には、連携してスムーズな入所に至った。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の安全確保のため、ご家族の許可を得て、やむを得ず安全ベルトの装着や柵の使用を行っているが、それが当たり前にならないようにしたい。玄関の施錠は夜間のみ行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時や介入時に身体の観察を行っている。何かあった時には共有しているが、必要に応じて話し合いを行いたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方がみえるが、知識は十分ではないので学べる場があるとよい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に説明する機会を持ち、ご家族様に納得いただけるよう丁寧な対応に努めている。改定の際も十分な説明を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時に利用者様に担当職員がつくため、気軽に相談しやすい雰囲気作りに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見や提案、または相談を受け反映に努めている。もっと意見交流の場をもてるとよい。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修の情報が共有され受ける機会がある。70歳以上の方も働いてみえ、活躍されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や資格取得の支援は行われている。ホームでの勉強会は行われていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の講習会など行かない限りは同業者との交流はない。今後増やしていけるとよい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に訪問調査を行い、ご本人にお会いし様子やお気持ちを把握し、関係作りの第一歩としている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、入所時の面談でご家族の思いをよく聞いて最初の段階から関係づくりに努めている。気軽に相談をしてもらえような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関わりや会話の中で、利用者様、ご家族様が必要としていることを見極め、その時に必要な支援を最優先にして考え対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや片付け、洗濯物作業や活動と一緒にすることで共に学び支え合う関係を築いている。職員の都合を押し付けないようにしたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度、手紙にて近況報告をし状況を把握していただいている。面会も中々できないので写真を必ず同封している。必要に応じて電話で相談、報告をし支援に繋げている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナの影響により面会ができない日が続いているが、ご家族様からのプレゼントや手紙をお渡しし、喜びを共有している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、リビングの席の配置を決めている。トラブルなどには十分注意して早めに介入している。なるべくお声がけをし孤独を感じることがないように気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用されていた方が退所されたりお亡くなりになると、どうしても疎遠になってしまうが、お会いした時にはごあいさつなどするようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で会話や表情などからご本人の意向を把握できるよう努めている。困難な場合は本人本位にアセスメントし検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のケアマネやご家族からの情報提供を職員で共有している。入所されてからもご本人やご家族との会話などから情報を集め把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル、食事摂取量、表情や動作などからご本人の状態の把握に努めている。記録と共に翌日に勤務者に申し送りされるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様のご希望を聞き、ケアプランを作成している。カンファレンスの際に職員間で意見を交わし最終的なプランとなっている。もっと活発な意見交換をしたい。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や申し送りノートを通して情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。重要視する部分が職員間で違うため反映されないこともある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の送迎、付き添いや個人希望の外出はできる限りの支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナの影響で外出は控えているが、移動販売車に月に2回来ていただいている。訪問美容師、薬局の訪問指導、訪問歯科、鍼灸マッサージの往診などのサービスを利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に継続的に診ていただき、必要に応じて適切な治療が受けられる体制ができています。訪問歯科、鍼灸・マッサージの往診も受けられる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時、かかりつけ医院の看護師に日頃の様子や状態を相談させていただき、丁寧なご指導、アドバイスをいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には介護サマリーなどを通して情報を共有し、利用者様が安全で穏やかに過ごせるよう努めている。退院時は受け入れのための準備もあるので病院へ出向き直接話を伺っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で必要に応じてご家族様、医師、ホームで面談を行い、方針を書面に残し同意を得ている。職員全員でケアの方法を統一し取り組んでいる。かかりつけ医、訪問看護師、ご家族様のご協力を得てチームで支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が的確な判断、処置ができるよう、定期的な訓練や勉強会などを行い実践力を身につけたい。マニュアルの作成がされるとよい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署の方々のご協力の下訓練を行っている。緊急連絡網の準備、非常食や水、ランタン等が常備してある。地域との協力体制が不十分なので強化できたらいいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩だということを常に意識し、一人ひとりを尊重したお声がけを意識している。口調が強い時がある職員もいるので、勉強会などで確認し合いたい。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で些細な事でも自己決定できるよう、エプロンの柄を選んでいただくなど選択する場面を意識して作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご希望に沿って過ごしていただけるよう、できる範囲で努めているが、どうしても職員都合になってしまう日もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナの影響で出かけることはできないが、美容師さんに訪問カットに来ていただいたり、化粧品や服装のこだわりなどその方らしい身だしなみには気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗い、片付けや野菜の下処理、カットなど利用者様のお力や体調に合わせて行っていただいている。介護度の高い方には見学していただくこともある。食事は職員も一緒に摂っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様に合わせた食事形態で提供している。毎食の摂取量も記録し共有している。食後や10時、15時に水分を摂っていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立度の高い方には昼食後の口腔ケアはご本人様に任せている所もあるが、朝、夕食後は必ず口腔ケアを行い、清潔の保持に努めている。訪問歯科も必要に応じて受けられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、できる限りトイレで排泄できるように支援させていただいている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を把握し、その方に合った方法でバナナ牛乳、ヨーグルト、オリゴ糖を摂ったりラジオ体操、腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴できる日が限られており、なかなか週3回の入浴ができない時もある。2人介助の方も増え、どうしても職員都合になってしまっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温に気を付け、寝具も適切な物を使用し、安心、安楽に休んでいただけるような環境を整えている。利用者様の体調に応じて休息させていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬はしっかりと確認し、申し送りノートにて薬の情報を共有している。全ての把握が難しくその都度確認している。誤薬がないよう名前の確認は必ずしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな食べ物を提供したり、昔得意だった作業(塗り絵、針仕事、生け花など)が行えるようケアプランに取り入れ支援している。コロナが落ち着いたら外食などにも出向きたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため外出、買い物、外食などはできていないが、天気の良い日には気分転換に散歩へお誘いし外の空気を感じていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しい方は金庫にお預かりし必要な時にお渡ししている。近所にある自動販売機にジュースを買いに、移動販売車で買い物などに支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があればご家族に電話をしていただいている。手紙も切手などの準備からポストへの投函まで支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調管理をこまめに行い、清潔で気持ちよい空間になるよう努めている。季節に合わせた飾りつけを、イベントに合わせて行っている。季節の花を飾ったり音楽をかけている。危険な物や混乱を招くような物は目に入らないよう気を付けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子やソファを置き、自由に使用していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使ってみえた物(筆筒、鏡台など)などを持ってきていただいている。写真などを飾って、落ち着ける空間となるよう努めている。(荷物が多いと混乱される方はこちらで管理している)		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分かりやすいように、リビング入口に提灯、居室、トイレや階段など分かりやすいように看板や張り紙が表示してある。		